

弘大病院と名古屋―IT企業 開発

自宅リハビリ 動画で支援

乳がん手術後、県内医療機関で初



弘前大学医学部付属病院は、名古屋市のIT企業「DRAGON AGENCY（ドラゴン・エージェンシー）」と共同で、乳がん手術後のリハビリテーションを支援する動画配信WEBシステムを開発し、6月から動画の配信を始めた。弘大病院が行っているリハビリを、患者が自宅で無理なく続けられる内容で、県内の医療機関では初の取り組み。将来的には、他のがんの患者も対象とした動画の配信を目指す。（菊金賢）

昨年11月、県が主催した「医療・介護関連現場ニーズ技術シース交流会」がきっかけとなり、弘大病院と同社青森支店との提携が成立。県の補助を受け、同支店が、弘大病院リハビリテーション部門の監修の下、システムの開発を進めてきた。

動画は「時期別」と「症状別」の二つのカテゴリで構成。腕を上げやすくなる体操、胸の張りを和らげる方法など、弘大病院で効果が確認された運動リハビリを紹介している。むくみ対策法や生活での注意点などのリハビリが可能となるため、遠方からの通院に負担を感じる患者の負担軽減につながる。

動画視聴は、専用のチラシに記載されたQRコードをスマートフォンで読み取り、IDを入力することで可能。現時点では、弘大病院の患者を主な対象として

会見で乳がん術後リハビリの重要性を語る弘大病院の津田部長（右から2人目）、袴田院長（同3人目）、飯田社長（同4人目）ら25日、弘大病院

いるが今後、対象を広げることも検討している。

25日、弘大病院で会見した袴田健一院長は「乳がんは働き盛りの世代が罹患するケースが多く、社会復帰のためにもリハビリはとても重要。術後の生活の質を



良いものとするためにも支援をしっかりと行いたい」と話し、リハビリテーション部の津田英一郎部長は、今回の取り組みを検証した上で、将来的に他のがんのリハビリにもシステムを広げていく意向を示した。DRAGON社の飯田真貴社長は「システムは地域に貢献する画期的な取り組みになるのではないかと期待を寄せた。

乳がん術後リハビリテーション動画の一場面。自宅で無理なく続けられるリハビリメニューとなっている